

【第 1 号議案】令和 6（2024）年度 事業報告案

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2024 年度（令和 6 年度）は 3 本の企画展示を開催し、2,125 名（うち有料 1,324 名）【R5=3,575 名（うち有料 2,367 名）】の来館者を迎えました。開館日は 252 日間。休館日は月曜日（祝休日を除く）、展示替え期間、年末年始、2025（令和 7）年 3 月 10 日から 31 日までの春季休館を含む 113 日間でした。

(2) 常設展示事業

受賞者コーナーは 2023（令和 5）年度から変更ありませんでした。相関図と個人紹介パネルのコーナーでは企画展示に併せて一部の個人紹介パネルと四コマ漫画を取り外すなど試みました。

(3) 企画展示事業

3 本の企画展示に加えて、2024 年 10 月 1 日から 11 月 3 日の会期で、新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を展示しました。

①「新潟日報紙掲載原画展」

2024（令和 6）年 4 月 2 日（火）～ 7 月 7 日（日） 84 日間

入館者数 608 名（うち有料 365 名）

②「生誕 160 年記念 吉田東伍展 ―『大日本地名辞書』を中心に―」

2024（令和 6）年 7 月 30 日（火）～ 11 月 3 日（日） 84 日間

入館者数 1,005 名（うち有料 573 名）

併催「坂口安吾と新潟日報」

2024（令和 6）年 10 月 1 日（火）～ 11 月 3 日（日） 30 日間

③「没後 30 年記念 発酵学の父・坂口謹一郎と短歌」

2024（令和 6）年 11 月 26 日（火）～ 2025（令和 7）年 3 月 9 日（日） 84 日間

入館者数 512 名（うち有料 385 名）

これら企画展示で 20 名の新潟県出身または所縁の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。（詳細は 4 ページから 7 ページまで）

2. ネットワーク協議会事業

(1) にいがた文化ネットワーク協議会

2024（令和 6）年度はマンパワー不足で協議会を開催できませんでした。しかし、館報へ掲載するために参加団体へのアンケートを送付して、「にいがた文化」第 10 号に掲載しました。

(2) 出張展示支援

①「新潟日報紙掲載原画展」

新潟日報社は紙上で多くの県内外の作家を取り上げ、政治経済のみならず芸術文化の振興にも力を注ぎ、作家たちとの関わりの中で多くの美術作品を収集してきました。新聞社ならではの特色あるコレクションです。これら企業コレクションは公開される機会が少ないため、本展では、日刊紙「新潟日報」の歴史を軸に、昭和 30 年代～50 年代の新潟日報新年号を飾った作品や、昭和 40 年代の『新潟日報ア

ド・ジャーナル』（広告主向け情報誌）表紙に使われた作品を中心に紹介しました。

②「生誕 160 年記念 吉田東伍展 —『大日本地名辞書』を中心に—」

吉田東伍の生誕 160 年を記念して、阿賀野市立吉田東伍記念博物館などにご協力いただき、『大日本地名辞書』を中心とした吉田東伍の業績を紹介しました。展示にあわせて、吉田東伍記念博物館の紹介パネルを作成し、現地へ足を運んでもらうために PR しました。関連事業として、阿賀野市立吉田東伍記念博物館の設立から携わっている前館長の渡辺史生氏から東伍の業績について講演いただきました。

③「没後 30 年記念 発酵学の父・坂口謹一郎と短歌」

当館では開館した 2013（平成 25）年度に「酒博士 坂口謹一郎」展（同時開催「日本のアンデルセン 小川未明」展、ともに主催：上越市、にいがた文化の記憶館、新潟日報社）を、翌 2014（平成 26）年度に「酒に学ぶ・坂口謹一郎と川上善兵衛」展（主催：坂口謹一郎博士顕彰委員会、にいがた文化の記憶館）を開催しました。しかしいずれも坂口単独ではなかったため、その紹介スペースには限りがありました。そこで本展では没後 30 年を記念し、過去の展示とは異なる切り口である歌人としての側面から坂口謹一郎を紹介しました。

(3) 館報の発行

館報「にいがた文化」は、新潟県博物館協会（事務局：北方文化博物館）に加盟していない小さな顕彰館や顕彰団体の事業や活動情報も掲載しています。新潟県博物館協会の「県博協ニュース」（毎年 4 月発行）を補完する役割を担っています。

(4) 県内文化施設・団体アンケート ※別紙参照

R4 年度から続いて、県内の文化施設や団体へのアンケート調査を実施して、館報「にいがた文化」10 号で紹介しました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として、担当学芸員等による解説会を 9 回開催しました。外部講師による講演会は、6 月に新潟日報紙掲載原画展監修者の横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館館長）、10 月には阿賀野市立吉田東伍記念博物館開設前から吉田東伍について調査研究している元館長の渡辺史生氏、3 月に坂口謹一郎と交流した陶芸家・齋藤三郎氏の次男の尚明氏（陶芸家）からご講演いただきました。

令和 6 年度の事業計画案に未掲載ですが、令和元年度に開催した企画展示「吉沢久子と古谷綱武展」の講演会（2020 年 3 月開催を無期限延期）を令和 7 年 3 月 30 日に開催しました。これは新型コロナウイルス感染症流行により延期した関連事業で、令和 7 年が吉沢久子さんの七回忌にあたることから、講師の阿部絢子氏のご快諾、吉沢さんの展示パネル等を所蔵する新潟日報社のご協力により開催しました。

令和 6 年度の企画展示関連事業の参加者総数は 4 9 1 名（前年度 388 名、前年比 126.5%）。内訳は作品解説会が 4 3 名（前年度 135 名、前年比 31.8%）、外部講師による講演会は 4 4 8 名（前年度 253 名、前年比 177.0%）でした。小中学校または高校などによる団体観覧（総合学習含む）は 1 3 校・団体のべ 2 0 4 名（前年度 19 校・団体、184 名、前年比 6 校減、対前年度比 110.8%）の来館がありました。

館外活動では、学芸員による新潟日報への寄稿が 1 本。講演会は学芸員による講座等が 1 回、のべ 4 3 名（前年度 37 名、前年比 116.2%）の参加がありました。

4. 調査及び研究・研修事業

令和 6 年度は他館との共同調査は行いませんでしたが、個人または団体からのレファレンス対応や取材対応を行いました。

当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加しました。当館での業務を踏まえて、にいがた市民大学運営委員会など外部委員をつとめています。

5. 収集・保存、資料貸出

令和6年度は資料3点を寄贈いただきました。

6. 広報

平成27年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビの3団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。昨年度同様、SNS（FacebookやX〔旧ツイッター〕）での情報発信を強化して、オンライン上でも各施設や団体との連携を図っています。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業参加者総数
252日／365日間	113日／365日間	2,125名	1,324名	491名 (担当学芸員による解説会 および企画展示関連事業)

※2023（令和5）年度実績：開館日239日間 入館者総数3,575名（うち有料2,367名）、普及事業参加者総数388名

(2) 常設展示

クール	テーマ名	会期	開催日数	備考
1	企画展示「新潟日報掲載挿絵原画展」カット原画等を展示 ① 受章者 新潟日報所蔵作品（三浦小平二、伊藤赤儘） ② 新潟の女性 女性画家による原画、掲載紙の複写を展示 ③ 医学 山下清ら原画、掲載紙の複写を展示 ④ 美術 長井亮之スケッチ、掲載紙の複写を展示 ⑤ 文学 會津八一などの掲載紙複写を展示	4/2(火)～ 7/7(日)	84	
2	① 受章者 新井満（R6年度寄贈原稿を展示） 以下、全体テーマ「日本の文化をになった新潟人・生没年グラフ」 ② 新潟の女性 ③ 医学 ④ 美術 ⑤ 文学	7/30(火)～ 11/3(日)	84	
3	① 受章者 「文化勲章受章者 坂口謹一郎」*1 以下、全体テーマ「日本の文化をになった新潟人・生没年グラフ」 ※展示内容は第2クールと同じ ② 新潟の女性 ③ 医学	11/26(火)～ 7/3/9(日)	84	*1. 企画展示「没後30年 発酵学の父・坂口謹一郎と短歌」の関連展示

	④ 美術 ⑤ 文学			
通年	文化勲章（10名） 文化功労者（18名） 人間国宝（5名）	4/2（火）～ 7/3/9（日）	252	

(3) 企画展示

①「新潟日報紙掲載原画展」

会 期	2024（令和6）年4月2日（火）～7月7日（日）84日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
監 修	横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館長）
趣 旨	<p>新潟日报社は紙上で多くの県内外の作家を取り上げ、政治経済のみならず芸術文化の振興にも力を注ぎ、作家たちとの関わりの中で多くの美術作品を収集してきた。新聞社ならではの特色あるコレクションである。これらの所蔵品の中から本展では、昭和30年代～50年代の新潟日報新年号を飾った作品や、昭和40年代の『新潟日報アド・ジャーナル』（広告主向け情報誌）表紙に使われた作品を中心に紹介した。同時に作品が掲載されたページのコピーも展示した。</p> <p>また、原画が掲載された紙面の検索過程で、新潟に赴任経験のある財界人や有識者が新潟への思いをつづった連載「わが新潟への賀状」（昭和52年1月掲載、全6回）にも県内作家の挿絵が使われていることを見つけ、全6回分をマイクロフィルムからコピーし展示した（執筆者は、綱淵謙錠〔作家〕、岡上鈴江〔小川未明次女、児童文学者〕、三淵嘉子〔元新潟家庭裁判所長〕など）。このコピー展示が新潟日報 web オリジナル記事で紹介された。</p>
紹介文化人	<p>県内出身の文化人（五十音順）： 岩田正巳（三条市）、小野末（新潟市）、小柳耕司（五泉市）、桑原実（南魚沼市）、笹岡了一（新潟市）、鈴木力（弥彦村）、関屋俊彦（新潟市）、富岡惣一郎（南魚沼市）、長井亮之（新潟市）、古川悟（上越市）、丸山正三（阿賀野市）、水島清（阿賀野市）、宮柊二（魚沼市）、山下清（東京都／佐渡ゆかり）</p> <p>県外出身の文化人（五十音順）： 青山杉雨（愛知県）、伊東深水（東京都）、片岡球子（北海道）、亀井勝一郎（北海道）、小島真佐吉（山形県）、田崎広助（福岡県）、中村研一（福岡県）、鍋井克之（大阪府）、野間仁根（愛媛県）、馬場あき子（東京都）、深沢紅子（岩手県）、福沢一郎（群馬県）、藤川栄子（香川県）、丸木俊子（北海道）、三谷十糸子（兵庫県）、武者小路実篤（東京都）、村上三島（愛媛県）、森澄雄（長崎県）、森田元子（東京都）、山口薫（群馬県）、脇田和（東京都）</p>
協 力 団 体 及 び 個 人	新潟日报社、横山秀樹氏
展 示	新潟日报社の所蔵品（日本画、洋画、書など）を、掲載紙面のコピーとともに紹介した。また、新聞のコピーも多数展示した。
関 連 事 業	<p>① 監修者・横山秀樹氏による講演会「ふるさとの作家たち」 参加者数：29名 開催日：6月30日（日） 会場：新潟日報メディアシップ6階ナレッジルーム 講師：横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館館長）</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 開催日：4月27日（土）、5月25日（土）、6月22日（土） 参加者総数：8名 会場：当館 担当：伊豆名 皓美</p>
広 報	<p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報（10回掲載）</p> <p>③ ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム（ミュージアムポータルサイト）</p> <p>⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲 載 記 事	6月12日（水）新潟日報 朝刊22面 展覧会へようこそ「中央画壇の画家に焦点」（執筆者：横

または番組	山秀樹氏) 6月21日(金) 新潟日報 web オリジナル記事「朝ドラ『虎に翼』主人公モデル、元新潟家裁所長三淵嘉子さんの寄稿発見！」
入館者数	608人(うち有料365人) ※6年度予算案作成時の目標人数=2,300人(達成率=26.4%)
総括 (展示全般および地域への関わりと効果など)	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔横山秀樹氏による監修〕本展は、美術評論家の横山秀樹氏に監修を依頼した。横山氏は10年前(2014年)に新潟市新津美術館長として「新潟日報社所蔵品によるふるさとの作家たち展」を企画・監修している。そして当時展覧会開催のために新潟日報社の所蔵品を調査し、その全貌を把握されていた。そこで本展では、横山氏の御指導のもと、作品が掲載された新聞を検索した。結果的に、新潟日報社の所蔵品について、より深く調査することができた。 ・〔作品を掲載紙面とともに紹介〕2014年の「新潟日報社所蔵品による ふるさとの作家たち展」に出品された作品のうち、16点は再度の展示となったが、作品が掲載された新聞のコピーとともに紹介するという、当館らしい展示ができた。 ・〔美術ファンからの反響〕当館で名前を紹介している画家について、作品とともに紹介することができた(岩田正巳、小野末、桑原実、笹岡了一、鈴木力、関屋俊彦、富岡惣一郎、山下清)。また、県外の著名な画家たちの作品も展示することができ、作品を所蔵する新潟日報社の文化的豊かさに対して美術ファンを中心に反響があった。 ・〔刊行物販売〕『新潟日報社所蔵品による ふるさとの作家たち展 図録』(2014年、新潟市新津美術館編)を委託販売した。販売実績は10冊。 ・〔講演会〕多くの作家について話を聞くことができて良かった、という感想が多かった。また、講師が学芸員としてかかわった作家とのエピソードも語られ、貴重な話を聞くことができてよかった、という感想も聞かれた。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔入館者数〕過去に開催した美術の企画展示は入館者が多かったため(参考:令和5年度「金子孝信展」77日間、1218人/令和3年度「尾竹竹坡展」84日間、1,369人)、美術に関心のある層の来館を見込んで目標入館者数を高く設定したが、目標に届かなかった。過去の同時期(4月～7月開催)の文学の企画展示並の入館者数であった(参考:令和4年度「鷲尾雨工展」80日間、589人)。入館者増のために、今回の課題を次年度以降に生かしたい。
担当	伊豆名 皓美

②「生誕160年記念 吉田東伍展 ―『大日本地名辞書』を中心に―

会期	2024(令和6)年7月30日(火)～11月3日(日) 84日間
主催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日報社
共催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	阿賀野市立吉田東伍記念博物館、新潟県立図書館、新潟県立文書館
趣旨	<p>吉田東伍(1864～1918年)は越後安田(現阿賀野市)の豪農・旗野家の三男に生まれた。学問を好む家族の中で育った東伍は、12歳で「学校は分かりきったことしか教えてくれない」と嫌気がさして退学すると、独学で知識を身につけて17歳で郷土誌『安田志料』を執筆した。その後も小学校教員や志願兵、新聞記者の職に就きながら、現地調査を行い、1893年刊行の『日韓古史断』で歴史家として認められた。</p> <p>日清戦争従軍から戻ると、大叔父の小川心斎が残した未完の地誌『国邑志稿』を基礎資料として、全国の地名を集めた『大日本地名辞書』の編さんを始める。東伍の構想は、単に地名を検索するための辞書でなく、その土地の自然的・文化的風土や特色を記した地誌、それも日本を統一した地誌を編さんするという、壮大なものだった。</p> <p>1907(明治40)年、13年かけて編さんした『大日本地名辞書』が完成。収録地名は約4万という偉業を独りで成し遂げた。</p> <p>本展では、吉田東伍の生誕160年を記念して、阿賀野市立吉田東伍記念博物館などにご協力いただき、『大日本地名辞書』を中心とした吉田東伍の業績を紹介した。関連事業として、阿賀野市立吉田東伍記念博物館の設立から携わっている前館長の渡辺史生氏から東伍の業績について講演いただいた。</p>
紹介文化人	吉田東伍(阿賀野市)、吉田千秋(新潟市)、市島謙吉(阿賀野市)、坂口仁一郎(新潟市)

協力団体 及び個人	阿賀野市立吉田東伍記念博物館、吉田東伍記念博物館友の会、新潟県立図書館、新潟県立文書館
展 示	“超域学者” 吉田東伍の業績を『大日本地名辞書』を中心に、資料や人物相関図とともに紹介した。
関 連 事 業	① 講演会「“超域学者” 吉田東伍の仕事 ―その災害史研究―」 参加者数：62名 開催日：10月9日（水） 会場：新潟日報メディアシップ6階ナレッジルーム 講師：渡辺史生氏（阿賀野市立吉田東伍記念博物館前館長） ② 担当学芸員による解説会 全3回（3回ともほぼ同じ内容） 参加者総数：21名 開催日：8月24日（土）、9月28日（土・祝）、10月26日（土） 会場：当館 担当：石垣雅美
広 報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報（10回掲載） ③ テレビCM：NST新潟総合テレビ ④ ラジオCM：BSNラジオ ⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ ⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」
掲 載 記 事 または番組	8月27日（火）新潟日報 朝刊12面 地域 下越 ピックアップ「吉田東伍 業績今こそ 阿賀野出身 生誕160年」 9月28日（土）新潟日報 朝刊10面 文化「災害史研究から吉田東伍を語る 来月9日、新潟」
入 館 者 数	1,005名（うち有料573名） ※6年度予算案作成時の目標人数=900人（達成率=111.6%）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	○ 評価点 ・2016年度企画展示「越後人のねばり～鈴木牧之、吉田東伍、諸橋轍次、原久一郎～」では、独りで偉業を成し遂げた偉人の一人として東伍を紹介した。2018年度企画展示「佐渡の能楽と世阿弥 吉田東伍の世阿弥発見」では、芸能史研究者としての東伍を紹介している。本展示では、複数の学域にまたがって研究をつづけた吉田東伍の業績を『大日本地名辞書』等の資料と相関図を中心に分かりやすく紹介できた。 ・新潟日报社新潟総局の記者から吉田東伍についての取材相談を受けて、阿賀野市立吉田東伍記念博物館を中心に記事にすることができた。 ■ 検討課題 ・他の業務もあり、企画展示の準備が進まなかった。そのため、借用先や広報物制作者に心配をかけた。業務量を相談しながら、企画展示の準備を進めていきたい。 ・イベントアンケートから、高齢により講演内容をよく理解できなかったとの声があった。当館のイベント参加者には高齢の方が多いので、今後は音量や明るさ等に気を配って準備したい。
担 当	石垣 雅美

③「没後30年記念 発酵学の父・坂口謹一郎と短歌」

会 期	2024（令和6）年11月26日（火）～2025（令和7）年3月9日（日） 84日間
主 催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日报社
共 催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	上越市、坂口記念館、新潟県醸造試験場、株式会社武蔵野酒造、株式会社杉田味噌醸造場、石本酒造株式会社、発酵学の父 坂口謹一郎顕彰会
趣 旨	坂口謹一郎（上越市生まれ、1897～1994年）は、味噌や醤油、酒の醸造などに欠かせない発酵を化学的に解明し、日本の食文化の発展に貢献した、応用微生物学の世界的権威である。酒に関する著書や豊富な知識から「酒博士」と呼ばれ、親しまれた。 当館では開館した2013（平成25）年度に「酒博士 坂口謹一郎」展（同時開催「日本のアンデルセン 小川未明」展、ともに主催：上越市、にいがた文化の記憶館、新潟日报社）を、翌2014（平成26）年度に「酒に学ぶ・坂口謹一郎と川上善兵衛」展（主催：坂口謹一郎博士顕彰委員会、にいがた文化の記憶館）を開催した。しかしいずれも坂口単独ではなかったため、その紹介

	<p>スペースには限りがあった。</p> <p>そこで本展では没後 30 年を記念し、過去の展示とは異なる切り口である歌人としての側面から坂口謹一郎を紹介した。</p>
紹介文化人	坂口謹一郎（上越市）、川上善兵衛（上越市）
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展 示	<p>坂口謹一郎の短歌のテーマの多くが酒や発酵学にまつわるため、展示の導入部分で科学者としての業績を、そのあとに歌集などの著書、坂口が歌を墨書した色紙などを紹介した。主な展示資料は、上越市が所蔵する坂口の著書や文化勲章、愛用の文房具などのほか、坂口と深いゆかりのあった酒造会社などが所蔵する坂口の短歌の書である。</p>
関 連 事 業	<p>① 講演会「坂口博士の思い出—父子二代にわたる交流から」 参加者数：38名 開催日：3月4日（火） 会場：新潟日報メディアシップ 6階ナレッジルーム 講師：齋藤尚明氏（陶芸家、「発酵学の父 坂口謹一郎顕彰会」副会長）</p> <p>② 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも同じ内容） 参加者総数：14名 開催日：12月21日（土）、1月25日（土）、2月22日（土） 会場：当館 担当：伊豆名 皓美</p>
広 報	<p>① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送）</p> <p>② 新聞広告：新潟日報（14回掲載）</p> <p>③ ラジオCM：BSNラジオ</p> <p>④ ウェブサイト：当館、メディアシップ、新潟文化物語、インターネットミュージアム</p> <p>⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「NIPPO TAKE A WALK」（イベント情報）、「カルチャーにいがた」</p>
掲 載 記 事 または番組	<p>12月8日（日） 新潟日報 朝刊 21面 「坂口謹一郎の企画展 歌人としての一面に光」（取材記事）</p> <p>1月17日（金） 新潟日報 朝刊 18面 展覧会へようこそ「越後の人への呼びかけ」</p> <p>2月19日（水） 新潟日報 朝刊 18面 「坂口博士の思い出 齋藤尚明さん講演 来月4日、新潟」（講演会募集記事）</p>
入 館 者 数	512人（うち有料385人） ※6年度予算案作成時の目標人数=900人（達成率=56.9%）
総 括 （展示全般 および地域 への関わり と効果など）	<p>○ 評価点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔企画展関連図を作成〕「坂口謹一郎を中心とした人物関連図」を作成、展示した。人物の関連関係を紹介する、当館らしい展示ができた。 ・〔歌碑・生誕地碑紹介パネルを作成〕上越市内にある坂口謹一郎の碑について、これまでにまとめられたものはなかったようなので、パネルにまとめて紹介した。 ・〔著作目録及び所蔵図書館の紹介〕「坂口謹一郎の著作目録及び所蔵図書館」リストを作成、展示した。展示している坂口の著書は記憶館では貸し出しができないため、新潟県立図書館と新潟市中央図書館での所蔵状況を紹介し、図書館の利用を促した。 ・〔顕彰館との連携〕坂口記念館で、坂口の応用微生物学者としての業績について詳しく知ってほしい、と呼びかけた。来館者から、春になったら顕彰館にも足を運んでみたいという声もあった。 ・〔講演会の開催〕坂口謹一郎を直接知る、齋藤尚明氏による講演会を開催することができた。父・齋藤三郎氏の、坂口をはじめとする多くの芸術家との交流がうかがえる写真や、地元にある碑の写真など、豊富な資料を交えての講演は参加者に好評だった。 <p>■ 検討課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔入館者数〕入館者数の目標を達成できず、達成率は、56.9%だった。SNS（X、Facebook）公式アカウントでの本展に関する情報発信が不足していたことも一因と考えられる。入館者増のために、今回の課題を次年度以降に生かしたい。
担 当	伊豆名 皓美

2. ネットワーク協議会事業

事業名	内容
(1) 館報の発行	誌面名：「にいがた文化」第 10 号 発行：2025（令和 7）年 3 月 仕様：16 ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙 表紙でたどる「にいがた文化」のあゆみ P10～16 新潟県内の文化人顕彰施設・団体からの PR 情報（ネットワーク館） 発行部数：5,000 部（無料頒布） 頒布先：県内文化施設、図書館、学校等

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会（参加者総数：43 名） ※2023（令和 5）年度実績：135 名

事業名	開催日	内容	参加人数
企画展示関連 解説会「新潟日報紙掲載原画展」	4 / 27 (土)	担当：伊豆名 皓美	3 名
	5 / 25 (土)	担当：伊豆名 皓美	2 名
	6 / 22 (土)	担当：伊豆名 皓美	3 名
企画展示関連 解説会「生誕 160 年記念 吉田東伍」	8 / 24 (土)	担当：石垣 雅美	7 名
	9 / 28 (土)	担当：石垣 雅美	9 名
	10 / 26 (土)	担当：石垣 雅美	5 名
企画展示関連 解説会「没後 30 年記念 発酵学の父・坂口謹一郎と短歌」	12 / 21 (土)	担当：伊豆名 皓美	7 名
	1 / 25 (土)	担当：伊豆名 皓美	2 名
	2 / 22 (土)	担当：伊豆名 皓美	5 名

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：448 名） ※2023（令和 5）年度実績：253 名

事業名	開催日	内容	参加者数
講演会「ふるさと新潟の作家たち」	6 / 30 (日)	講師：横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新潟美術館館長） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム	29 名
講演会「“超域学者” 吉田東伍の仕事—その災害史研究（貞観地震・津波論文など）から観る—」	10 / 9 (水)	講師：渡辺史生氏（阿賀野市立吉田東伍記念博物館元館長） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム	62 名
講演会「坂口博士の思い出—父子二代にわたる交流から」	3 / 4 (火)	講師：齋藤尚明氏（陶芸家、「発酵学の父 坂口謹一郎顕彰会」副会長） 会場：メディアシップ 6 階 ナレッジルーム	34 名
吉沢久子さん七回忌追悼講演 「吉沢久子さんに学んだ シニアの老後を楽しむ処方箋」 ※新型コロナウイルス感染症の流行で延期した 2019 年度「吉沢久子・古谷綱武展」の関連事業	3 / 30 (日)	講師：阿部絢子氏（生活評論家、薬剤師） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール ※応募多数により午前と午後の 2 回開催	319 名

(3) 学校との連携事業及び学習対応（参加者総数：14 名） ※2023（令和 5）年度は 16 名

事業名・学校名	期間	内容
新潟地域学習調査活動（総合学習） 新潟市立寄居中学校 2 年生 4 名	5 月 16 日(木)	担当：高岡事務局長 内容：館内案内、質問への回答
臨地実務実習 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2 年生 3 名	6 月 7 日(金) ～ 8 月 2 日(金)	担当：伊豆名学芸員、高岡事務局長 内容：館運営にかかる説明等。新井満について講義と四コマ漫画作成、展示
職場体験 新潟市立鳥屋野中学校 2 年生 2 名	7 月 2 日(火) ～ 7 月 3 日(水)	担当：高岡事務局長、石垣学芸員 内容：館運営にかかる受付業務や広報業

		務などを体験
新潟探訪（総合学習） 新潟市立小針中学校 2 年生 5 名	7 月 5 日(金)	担当：高岡事務局長 内容：館内案内、質問への回答

※2024 年度に来館した小中学校数及び生徒数：11 校、110 名（2023 年度：17 校、176 名）

(4) 館外での活動（執筆、講座、講演会など）

■ 執筆活動

タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
新潟日報「展覧会へようこそ」 「越後の人への呼びかけ」	1 / 17 (金)	企画展示「没後 30 年記念 発酵学 の父・坂口謹一郎と短歌」を紹介	伊豆名 皓美

■ 講座、講演会など（参加者総数：43 名） ※2023（令和 5）年度は 37 名

事業名	開催日	内容	参加者数
吉田東伍記念博物館友の会主催 市民文化講演会「相関図から見る吉田 東伍の人的ネットワーク」	11 / 9 (土)	担当：石垣雅美学芸員 会場：安田交流センター風とぴあ	43 名

4. 調査及び研究・研修事業

■ 調査

新潟日報社所蔵資料（小柳胖旧蔵）や紹介文化人等のレファレンス対応 担当：学芸員（随時）

■ 研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

■ その他

にいがた市民大学運営委員会 担当：石垣雅美学芸員（任期：2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

5. 収集・保存、資料貸出

■ 資料の寄贈受入

作者名	分野	資料名	材質・技法	員数
新井 満	文学	直筆原稿	紙、インク	1
小柳 胖	新聞	色紙	紙、墨	1
小柳 胖	新聞	掛軸	紙、墨	1

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
新潟日報	8 / 12 (月・祝)	〔オピニオン〕小柳元本社社長 一兵卒の苦労、家族愛、 新聞への熱意 硫黄島から書簡 新潟思い 偽名で消息 伝えるはがきも	新潟日報社 森沢真理 特別論説編集委員
新潟日報	11 / 7 (木)	「荷風に実子」真相追い求め 江畑忠彦さんが取材、出版 本県出身 静樹との関係詳述	—
新潟日報	12 / 29 (日)	〔広告〕「にいがた文化の記憶館」2024 年度維持会員・パ スポート会員の皆様 ご支援感謝致します	—

新潟日報	2 / 21 (金)	“師” 吉沢久子さん譲り 老後を楽しむ術伝授 新潟出身 阿部絢子さん講演 来月 30 日、新潟 先着 180 人受け付け	—
新潟日報	2 / 24 (月・祝)	[オピニオン深掘り深読み] 対日宣伝ビラ作成 元捕虜座 談会の記録 終戦早めたい米軍に協力 小柳本社元社長 ら 貴重な肉声「祖国裏切り」複雑な心情	新潟日報社 森沢真理 特別論説編集委員
新潟日報	3 / 31 (月)	吉沢久子さん七回忌 シニア暮らし楽しみ指南 生活研 究家 阿部絢子さん 新潟で講演	—

3. 事業別評価

事業名		評価点 (○)	改善点 (▲)・今後の課題 (■)
展 示	常 設 展 示 (相関図)	○ 第1クールではこれまでと異なり、企画展示の展示ケースとして挿絵原画や掲載紙面の複写を展示した。	■ 資料保存の観点から常設展示、企画展示とも、中長期での展示計画を検討する必要があるだろう。
	企 画 展 示	○ これまで展示されたことのない資料を調査して展示、紹介できた。	
ネット ワーク 協議会	協 議 会		■ マンパワー不足で協議会準備が出来ずに未開催となった。
	顕 彰 施 設 及 び 団 体 と の 連 携		■ 議題としてこれまで各館の PR 動画作成、(記憶館での) 出張展示や出張講座の実施といったことが挙げられている。R4 年度に実施したアンケートにならない、それらについて各館・団体の声 (要望・意見) を聞き、どういったことが可能かを探ることが必要だと考える。
	館 報	○ R6 年度に開催したイベントを紙上再録して、記録に残すことができた。 ○ 県博物館協会に加盟していない団体等の情報を掲載することで、広く告知できた。	■ R4 年度同様 16 ページ構成とした。原材料費高騰により、発行部数の検討が必要かと思われる。また、紙媒体や SNS など各媒体での発信情報を整理して、効果的な広報を検討したい。
教 育 普 及	イベント、 講演・解説	○ 企画展示の開催にあわせて資料借用先から講演依頼があり登壇した。	
	副 読 本 ・ 偉人かるた		■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりと、偉人かるたの PR について見直したい。
調 査 ・ 研 究		○ 基本とする文化人データを調査、蓄積している。 ○ 企画展示の準備や照会依頼により、文化人の調査を進めている。 ○ 他館学芸員や郷土史家との意見交換等を行っている。	
人 物 選 定 委 員 会		○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。	
広 報		○ 不定期ではあるが、職員による SNS での発信を続けている。	■ 昨年度からの課題であるが、チラシやポスター等の紙媒体での発信を見直して物流のコスト高への対応を検討したい。

【参考資料】◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	<p>〔4月〕ギャラリーみつけ・徳永健一館長、新潟日报社・高津直子氏、會津八一記念館・外山陽子氏、同館・喜嶋奈津代学芸員、開志専門職大学アニメ・マンガ学部・雑賀忠宏講師、新潟県文化課・新田はる香係長、同・中島香代子主査、武藤斌顧問、新潟日报社・森澤眞理特別論説編集委員、横山秀樹学芸顧問、會津八一記念館・湯浅健次郎学芸員、新潟日报社・古川雅江氏、新潟放送・島田好久社長、内田義雄氏、新潟日报社・鶴間尚執行役員、(株)JR 東日本パーソナルサービス・金山幸枝課長他4名、長岡技術科学大学・石黒司朗氏、新潟市美術館3名、平山征夫元評議員、長谷川義明理事長</p> <p>〔5月〕新潟日报社・八幡亨総務、長谷川義明理事長、新潟日报社・増山達也氏、一般財団法人佐渡文化財団・伊里浩係長、武藤斌顧問、新潟日报社・吉川氏、横山秀樹学芸顧問、新潟日报社・小原記者、同社・監物記者、新潟大学・角田勝久教授、新潟日报社・古川雅江氏、同社・徐記者</p> <p>〔6月〕武藤斌顧問、新潟日报社・石原亜矢子文化担当部長、同社・市野瀬亮記者、開志専門職大学情報学部・三上喜貴学部長、橋本博文評議員、山浦健夫氏、横山秀樹学芸顧問、小田敏三理事長、アトリエ関屋俊彦・関屋和之氏、BSN メディアホールディングス・竹石松次特別顧問、新潟県立荒川高校・大滝文幸教諭、新潟日报社施設見学担当・老田和美氏、同社・中村氏、同社読者局・小林局長、秋艸会・山田修事務局長、新潟日报社・阿部圭子氏、同社・森澤眞理特別論説編集委員</p> <p>〔7月〕横山秀樹学芸顧問、佐渡市立佐渡博物館・本間祐徳学芸員</p> <p>〔8月〕阿賀野市立吉田東伍記念博物館元館長・渡辺史生氏、平山育男評議員、開志専門職大学アニメ・マンガ学部・雑賀忠宏講師、武藤斌顧問、長谷川義明前理事長、BSN メディアホールディングス・竹石松次特別顧問</p> <p>〔9月〕新潟日报社・八幡亨総務、新潟放送・吉井一善報道制作局次長、新潟日报社・森澤眞理特別論説編集委員、新潟日报社友・坂上義興氏、會津八一記念館・水本裕之事務長、新潟大学・角田勝久教授、今井先生、新潟日报社・今井美穂部長、中島榮一氏、新潟日报社・大場氏、横山秀樹学芸顧問、新潟日报社・高津直子氏、新潟日报社・森澤眞理特別論説編集委員とお客様3名</p> <p>〔10月〕新潟日报社・石山真常務取締役、新潟日报社・石原亜矢子文化担当部長、吉田文庫・小野里優子氏、同・若月香奈恵氏、新潟県観光文化スポーツ部文化課・茂野由美子課長、新潟日报社・中村裕氏、同社・大場氏、引田道人氏、新潟日报社・増山達也氏、同社ふれあい事業部・今井部長、同・竹田氏</p> <p>〔11月〕横山秀樹氏、一般財団法人佐渡文化財団・伊里浩係長、會津八一記念館・水本裕之事務長、新潟日报社ふれあい事業部・今井美穂部長、鉦起作家・西片正氏、竹芸家・本間秀昭氏</p> <p>〔12月〕會津八一記念館・湯浅健次郎学芸員、春城会・小泉豊信会長、新潟日报社・増山達也氏、新潟日报社・山田啓介記者、山浦健夫氏、武藤斌顧問、新潟大学旭町学術資料展示館・清水美和学芸員、新潟県立文書館・広野太一主任文書研究員、小田理事長とお客様3名様（遠藤信様ご夫妻、本多菊雄様）、長谷川義明前理事長、秋艸会・渡辺淳子氏、新潟日报社・今井美穂部長</p> <p>〔1月〕秋艸会・山田修事務局長、中条會津八一会・今村克治氏、BSN メディアホールディングス・竹石松次特別顧問、捧実穂理事、横山秀樹学芸顧問、三条市歴史民俗産業資料館別館・長谷部原学芸員、平山征夫元評議員、県立新潟東高校・小川貴史教諭、上越市頸城区総合事務所総務・地域振興グループ・橋場結生氏、上越市立歴史博物館・小川陽子氏</p> <p>〔2月〕新潟大学・角田勝久教授、新潟市歴史博物館・中村里那学芸員、武藤斌顧問、新潟日报社・増山達也氏、新潟日报社・森澤眞理特別論説編集委員、新潟大学・岡村浩教授、BSN メディアホールディングス・竹石松次特別顧問、新潟市民映画館シネ・ウインド・井上久経支配人、前川國男を語る会・松沢寿重氏、むれの會・阿部絢子氏、新潟日报社・高津直子氏、京都清宗根付館・及川空観顧問、大西弘祐副館長、杉田味噌醸造場代表取締役・杉田貴子氏</p> <p>〔3月〕新潟日报社友・星野純朗氏、横山秀樹学芸顧問、岩の原葡萄園・渡辺真守氏</p>
ご 遺 族	<p>〔6月〕関屋俊彦ご遺族</p> <p style="text-align: right;">計 1 名</p>
団体観覧（一般）	<p>〔6月〕白楽会（新潟市南区の団体）8名</p> <p>〔7月〕藍の会 9名</p> <p>〔10月〕阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会 18名、ふるさと文化探訪会（新発田市）21名</p> <p>〔11月〕西蒲区を歩こう会 20名、中之口地区ボランティア・グループ連絡協議会 23名</p> <p>〔12月〕東日本電気エンジニアリング（株）8名</p> <p style="text-align: right;">計 7 団体（107 名）</p>

<p>団体観覧 (学校) ※引率者 を含む ※太字は 前年度以 前から継 続して見 学してい る学校</p>	<p>〔4月〕 新潟市立南浜中学校 2年生 8名、新潟市立関屋中学校 2年生 5名 〔5月〕 新潟市立宮浦中学校 2年生 4名、新潟市立曾野木中学校 2年生 4名、新潟市立巻西中学校 2年生 6名・引率 1名、新潟市立寄居中学校 2年生 4名・引率 1名、新潟市立大江山中学校 2年生 5名 〔6月〕 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名（臨地実務実習生） 〔7月〕 新潟市立鳥屋野中学校 2年生 2名（職場体験）、開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名（臨地実務実習生） 〔8月〕 開志専門職大学アニメ・マンガ学部 2年生 3名（臨地実務実習生） 〔9月〕 北信越高文連高校生 64名・引率 27名、長岡市立前川小学校 5年生 43名・引率 3名、新潟市立新津第二中学校 2年生 4名、 〔10月〕 新潟明訓中学校 2年生 20名</p> <p style="text-align: right;">計 13 校・団体（204 名） ※ 2023（令和 5）年度＝計 19 校・団体（184 名）</p>
--	--

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 理事会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和6年5月8日 新潟日報メディアシップ14階	[議事] 1. 2023(令和5)年度 事業報告案の件 2. 2023(令和5)年度 決算案の件(監査報告) 3. 任期満了に伴う理事選任案の件 4. 辞任に伴う評議員選任案の件 5. 展示等事業の監修者および講演会講師に対する謝礼支給規則案の件
第2回 (定時)	令和6年5月27日 新潟日報メディアシップ14階	[議事] 1. 2024(令和6)年度 代表理事・理事長ならびに代表理事・副理事長の互選の件、および業務執行理事・館長ならびに業務執行理事・常務理事選任の件
第3回 (定時)	令和7年3月24日 新潟日報メディアシップ18階	[議事] 1. 2025(令和7)年度 事業計画案の件 2. 2025(令和7)年度 予算案の件 [報告] 1. 決算理事会と評議員会の日程について 2. その他

(2) 評議員会

	開催日・会場	主な議事
第1回 (定時)	令和6年5月27日 新潟日報メディアシップ14階	[議事] 1. 2023(令和5)年度 事業報告案の件 2. 2023(令和5)年度 決算案の件(監査報告) 3. 任期満了に伴う理事選任案の件 4. 辞任に伴う評議員選任案の件 5. 展示等事業の監修者および講演会講師に対する謝礼支給規則案の件
第2回 (定時)	令和7年3月24日 新潟日報メディアシップ18階	[議事] 1. 2025(令和7)年度 事業計画案の件 2. 2025(令和7)年度 予算案の件 [報告] 1. 決算理事会と評議員会の日程について 2. その他

2. 組織

(1) 役員等の人数(令和7年3月31日現在)

評議員	13名	令和6年5月28日から現体制
理事	10名	理事内訳(代表理事2名、館長・理事1名、常務理事・事務局長1名、理事6名)
監事	1名	

(2) 職員数(令和7年3月31日現在)

館長	事務局長	職員	計
1名	1名	2名	4名

※ 顧問1名、学芸顧問1名

(3) 組織図（令和 7 年 3 月 31 日現在）

